

令和7年度 卒業論文要旨・講評

学 生 氏 名	久志本 駿
論 文 タ イ ト ル	歴史的町並みにおける保存と観光の調整メカニズム —運用三要件による整理—
要 旨	<p>本研究は、歴史的町並みにおける保存と観光の両立を「現場の運用」に着目して追究した。フィールドワークと理論研究をもとに地域社会における合意（ソフト）・空間（ハード）・行動（フロー）に関する「運用三要件」という独自の分析枠組みを用いて、白川郷と鞆の浦の2事例の比較分析を行った。その結果、白川郷では住民組織と規範の早期確立により景観統一と来訪抑制が図られる一方、観光行動の集中が生活動線を阻害し、調整対象が景観上の見た目の問題から通行の権利・移動の確保へ転化する局面がみられた。</p> <p>鞆の浦では、司法判断をきっかけに合意形成と町家再生や相談窓口の整備が進み、個別の修復・整備の積み重ねによって生活利便と町並みの一体感、滞在型消費を両立させる運用がなされた。</p> <p>以上により、運用三要件は地域条件に応じた運用形態の選択と課題の現れ方を説明する枠組みであり、他地域における保存と観光の調整設計にも応用できることを論じた。</p>
講 評	<p>本論文は、観光需要の拡大に伴い顕在化してきた歴史的町並みにおける保存と観光の両立という今日的課題に対し、現場の運用に着目して実証的に検討した優れた研究である。先行文献に加え、条例や行政資料の精査と現地調査を組み合わせた多角的分析を行い、論理展開も明晰かつ整合的である。</p> <p>とりわけ、白川郷と鞆の浦という対照的な二地域を対象に、「合意形成」「空間運用」「動線設計」からなる運用三要件という分析枠組みを提示し、共通基準で比較した点に独創性がある。提示された分析枠組みは、対象事例にとどまらず、他の地域への適応可能性を示唆するものである。</p> <p>以上により、本論文は総合部門の最優秀論文賞にふさわしいと評価できる。</p>